

シリーズ！ 我が国からの議長・副議長に聞く その5

まえだ よういち
前田 洋一 ASTAP議長（2017年3月選出（再任））

専門領域：伝送系電気通信ネットワーク、標準化マネジメント	2006年	NTTアドバンステクノロジー株式会社
略歴：	2010年	社団法人情報通信技術委員会（TTC）専務理事
1980年 静岡大学大学院工学研究科 修士修了	2010年	XGPフォーラム議長（4期目継続中）
1980年 日本電信電話公社（現NTT）電気通信研究所 入社	2013年	ITU-T Review Committee議長（任期4年間）
1988年 英国電気通信研究所（BT）交換研究員留学（1年間）	2014年	アジア太平洋電気通信共同体 ASTAP議長（2期目継続中）
2001年 ITU-T SG13副議長（任期4年間）		一般社団法人情報通信技術委員会 代表理事専務理事（現職）
2005年 ITU-T SG15議長（任期8年間）		



—— APT議長職という重責を担われていることについて任命を受けられた際のお気持ちと、それ以降の感想をお聞かせ下さい。

前田 アジア諸国の提案を国際標準に反映するために、APTの38か国加盟国の連携による地域の団結力を生かした標準化活動の推進を図る標準化連携戦略が重要であり、日本は、韓国と中国と連携し、リーダーシップを発揮する責務があります。

—— 議長職の任期はいつまでですか？

前田 任期は一期3年で最大二期までの規定であり、2017年3月のASTAP-28会合で二期目の継続が決定しました。

—— APTでの活動は、私達の情報通信・放送分野における発展に非常に重要な役割があると思いますが、現在の職責における最重要テーマ・課題はどのような事でしょうか？

前田 標準化を活用した地域にふさわしい新規ビジネスの創出に貢献することです。標準化技術としては以下の課題を扱っています。Bridging Standardization Gap, Green ICT, EMF* Exposure, M2M, Future Network, NGN, Seamless Access Communication, Multimedia Applications, Information Security, SNLP, Accessibility and Usability, and Conformance and Interoperability (C&I)。

—— 議長としての目標達成のためにどのような点に力点を置いて活動される予定ですか？

前田 標準化は目的でもゴールでもなく、ビジネスにおける活用手段です。会員企業のビジネス創造に貢献できることが目標です。その実現方法として、国際標準化機関であるITU-TとAPT・ASTAPとの連携を図るとともに、最新市場動向の把握とICTスキル向上のためのテーマやイベントに積極的に取り組んでいきます。

—— 議長としての難しさや壁（障壁）、そうしたことへの対処方法はどうかお考えですか？

前田 日中韓で連携したリーダーシップの発揮と信頼の確保のためのヒューマンコミュニケーションの活用だと考えています。

—— 我が国、各加盟国の政府関係やICT産業界からの理解や協力が大変重要で必要なものだと思いますが、これについての期待をお聞かせください。

前田 ICTグローバル市場としてのアジア地域の活用を念頭においた日本企業の存在感のより積極的なアピールの場として活用してほしいと思っています。また、後継者を含めた人材育成が重要です。

—— 他国の政府や事業者などとの協調・協力が不可欠だと思いますが、議長としてこうした加盟国（事業体）に対して期待することはどのようなことがありますか。

前田 政治的な壁を乗り越えた標準化を通じた技術ベースの連携の場としての活用です。

—— 個人的な信条とか、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

前田 のんびりした時間の確保から始めないとダメかな、と反省しています。

—— このインタビューにお時間を割いていただき有難うございました。これからの一層のご活躍をお祈りしております。読者の方へのメッセージがあればお聞かせください。

前田 議長としての目標とか考え方を問われますが、言葉にできるのは表面的なもので、あまり尋ねられても読者に面白い話は出来かねます。議長が扱う課題も予測不能な時代が訪れています。先入観を持たず、まずは人の言うことに耳を傾け、公平な判断を下すことが重要と考えます。

【読者のための豆知識】

ASTAPの活動内容：
APT地域における標準化に関する協調連携とグローバル標準化への貢献を目的としたAPTにおける作業プログラム

* EMF：Electro-Magnetic Field



あべ むねお
阿部 宗男 APG WP3議長 (2016年7月選出 (再任))

専門領域：衛星通信ネットワーク・システム技術
略歴：
1978年 東京大学大学院 工学系研究科 電子工学修士課程修了
1978年 国際電信電話(株)(現KDDI)入社
2008年 三菱電機(株)へ移籍
1982年 CCIR SG4 IWP4/1 (現ITU-R SG4 WP4A) 参加
2000年 APG会合参加
2003-2012年 ITU-R SG4副議長
2008年 APG WP (衛星関係) 議長 (現在に至る)
2012年 WRC-12 COM5議長



—— APT議長職という重責を担われていることについて任命を受けられた際のお気持ちと、それ以降の感想をお聞かせください。

阿部 2008年より衛星関連のWRC議題を所掌とするWPの議長を務めさせていただき、今回で3期目となります。APG会合がAPT各国にとって有意義なものとなるよう、また、日本への信頼が得られるよう頑張ります。

—— 現在の議長職の任期はいつまでですか？また、御自身の担当領域と経歴、APTとの関わり、その他標準化機関での活動を教えてください。

阿部 APG WP議長の任期は2019年のWRC会合までです。APGは1997年に設置され、私は2000年から参加しています。ITUやAPTの会合に参加するたびに新しいことを学び勉強になったと感じます。

—— APTでの活動は、私達の情報通信・放送分野における発展に非常に重要な役割があると思いますが、現在の職責における最重要テーマ・課題はどのような事でしょうか？

阿部 衛星通信関連では、近年顕著な移動体との高速衛星通信需要への対応や非静止衛星をもっと利用するための対策などが挙げられます。

—— 議長としての目標達成のためにどのような点に力点を置いて活動される予定ですか？

阿部 WRC審議にAPT地域の意見を反映するため、APT内で統一見解を構築しWRCにAPT共同提案を入力することが目標です。そのためにはDrafting Group (DG)での各国意見のすり合わせが大切で、DGでの議論を如何に支援するかが課題と思っています。

—— 議長としての難しさや壁(障壁)、そうしたことへの対処方法はどうかお考えですか？

阿部 APTは異なる立場の国が多く、意見をどうやってまとめるか毎会期悩むところです。まず、議長は公平であることが第一と肝に銘じています。そして、その次にOff-

lineでの調整が重要と考えています。

—— 我が国、各加盟国の政府関係やICT産業界からの理解や協力が大変重要で必要なものだと思いますが、これについての期待をお聞かせください。

阿部 日本は諸課題に関する技術的な解析力において、APT内で群を抜いています。検討結果を日本が各国に分かりやすく説明することにより、日本への信頼感と支持を得ることができると思います。

—— 他国の政府や事業者などとの協調・協力が不可欠だと思いますが、議長としてこうした加盟国(事業体)に対して期待することはどのようなことがありますか？

阿部 各国の立場に柔軟性を期待します。柔軟性が少しあれば、主張の本質を理解し、譲れる点を探っていくことにより妥協点が見出せる場合が多いと考えています。

—— 個人的な信条とか、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

阿部 信条ではありませんが、健康・体重維持のため「一日一食」生活をしています。アルコールが飲めるよう摂る一食は夕食です(笑)。いつgive upしてもおかしくないと思いつつ何とか6年続いています。

—— このインタビューにお時間を割いていただき有難うございました。これからの一層のご活躍をお祈りしております。読者の方へのメッセージがあればお聞かせください。

阿部 これから国際会議に参加される方へ。国際会議への参加は、寄与文書を作成・提出することが第一歩だと考えます。寄与文書を出せば、それを会議でプレゼンし、質問に答えなければなりません。いやでも議論に参加することになります。是非、寄与文書提出をご検討下さい！

【読者のための豆知識】

APG WP3 (衛星関係) の活動内容：
ITUのWRC-19に向け、APT地域での統一見解をまとめ、共同提案することを目的

さとう こうへい
佐藤 孝平 AWG議長（2016年9月選出（再任））

専門領域：次世代移動通信システムの国内外の標準化活動の推進

略 歴：

1975年 日本電信電話公社（現、株式会社NTT）入社/電気通信研究所 入所

1992年 NTT移動通信網株式会社（現、株式会社NTTドコモ） 転籍

1985年以降 ITU-Rにおける標準化活動及びIMT-2000の国際アライアンス活動に従事

2002年 NTTドコモを退職/社団法人電波産業会・理事に就任

2015年 一般社団法人電波産業会・標準化統括担当参与（現在に至る）

1987年、1992年、2003年、2007年、2012年及び2015年の世界無線通信主管庁会議又は無線通信会議に日本代表団の一員として参加

2009年 APT無線フォーラム 副議長就任

2014年 APT無線グループ 議長就任（現在に至る）



—— APT議長職という重責を担われていることについて任命を受けられた際のお気持ちと、それ以降の感想をお聞かせください。

佐藤 AWGの前身であるAWFの発足当初から関わり、組織見直し等のリードを評価されて議長に選出されましたが、日本のAPTへの継続的かつ多大な貢献が評価されたものと理解し、深く感謝しております。

—— 現在の議長職の任期、御自身の担当領域と経歴、APTとの関わり、その他標準化機関での活動を教えてください。

佐藤 任期は2019年9月まで、現在の専門分野は、次世代移動通信システムに関する国内外の標準化活動の推進、1985年からITU-R、3GPP及び日中韓でのIMTに関わる標準化活動に携わっています。APTと私の接点はIMT-2000フォーラムの最終会合（2003年11月）で、その後AWFの組織見直しや名称変更をAWF副議長として取りまとめ、13年以上関わってきました。

—— 現在の職責における最重要テーマ・課題はどのような事でしょうか？

佐藤 日本が世界無線通信会議WRC-19の新議題として提案した「将来のIMT開発のためのIMT用周波数特定の検討」を含む4つの議題に対し、技術的な観点からの寄与・貢献が極めて重要です。そこで、APGとの密接な協力連携のため、APG議長と情報・意見交換を行い、常にAWG活動にフィードバックしています。

—— 議長としての難しさや壁（障壁）、そうしたことへの対処方法はどうお考えですか？

佐藤 開発途上国や少人数の参加国からの意見をどう取り込むか、常に模索しています。少人数の参加国が参加しやすい組織構成に徐々に近づける努力をしています。

—— 我が国、各加盟国の政府関係やICT産業界からの

理解や協力が大変重要で必要だと思いますが、期待をお聞かせください。

佐藤 更に円滑な活動を行うために、日本人がハイレベルな役職ポストに就くことも重要です。知識や経験のある方々には継続的に参加をお願い致します。

—— 他国の政府や事業者などとの協調・協力が不可欠だと思いますが、議長として加盟国（事業体）に対して期待することはどのようなことがありますか？

佐藤 多数の代表団で参加する国は、寄与文書も発言も多いのですが、そうでない開発途上国や少人数の参加国の意見・見解を探ることが重要。その方策を考えること、幅広い情報・意見交換を役目と考えています。

—— 個人的な信条とか、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

佐藤 基本は人脈だと思います。ITU-RWP8F第13回会合（2004年6月、ドイツ・ベルリン）での休日に、韓国代表団と楽しくコースをまわり、ゴルフデビューしました。以来、会合の休日には、外国の代表団とのグリーンミーティングを頻繁に行っています。

—— このインタビューにお時間を割いていただき有難うございました。これからの一層のご活躍をお祈りしております。読者の方へのメッセージがあればお聞かせください。

佐藤 AWG活動を円滑に進め、更に発展・拡充させられるよう、更なるご支援・ご協力をお願い致します。

【読者のための豆知識】

AWGの活動内容：

APT（アジア・太平洋電気通信共同体）において無線通信システムに関する周波数の調和や標準化等について検討を行うグループ